



前号に引き続き、またまたテンポ (TempO) の話題で恐縮だが、目下 IOF トレイルO委員会 (TOC) ではテンポ世界選手権に向けての競技規則改訂作業が進んでいる。その構想内容をちょこっと紹介する.. (未決定です。要注意)

### ■ WTOC 第3日目がTempO世界選手権大会日に

現在は第一日目、第二日目がオープン・クラスおよびパラリンピック・クラスのそれぞれの競技日であるが (第二日目は国対抗のチーム競技日を兼ねる)、新たに第3日目がプログラムに追加されテンポ世界選手権の競技日となる (オープン・クラスおよびパラリンピック・クラス共)。

### ■ オープン・クラス、パラリピック・クラス構成の各3名の選手はそのままテンポ競技へ

現在はオープンおよびパラリンピック・クラス各3名合計6名 (最大) がエントリーできるが、この選手がそのままテンポ選手権に挑戦することになり、エントリー可能選手数は増員とはならない。ただし、テンポ選手権へエントリーするかしないかは自由である。

### ■ モデル・イベントあり

選手権大会前日までにモデル・イベントを開催する。モデル・イベントは、少なくともひとつのDPで3カ所のコントロール群を、モデル・イベント全体では8コントロールが経験できること。

### ■ トレイルOでは初めての予選、決勝システムが導入される

予選成績の上位15人が決勝へ進出する。決勝では、予選成績の下位の者からスタートする。

### ■ テンポに試用する地図は..

中央にコントロール円が描かれた円形、または正方形 (に切り取った) の地図が用いられる。地図のサイズは、円形の場合は直径 10cm~12cm、正方形

の場合は一辺が 10cm~12cm で、地図より大きい硬い台紙に貼り付けて使用し、台紙の下部にA-FおよびZの指差しボックスを表示する。



### ■ テンポでのタイム・コントロール方法

■ コントロールの総数: 15~40 カ所  
予選では異なる場所での 20~30 のコントロールを使用。

■ 予選の 2~4 時間後に決勝を開始する。決勝進出は予選成績の上位 15 人。予選成績下位の者からスタートし、予選での最上位者は最後にスタートする。

■ 決勝では、異なる場所での 10 コントロールで行う。

■ 1カ所のステーションでは1~5のタイム・コントロールを実施し、各コントロールは1~6個のフラッグ(A-F)で構成する。

■ 通常のTCと同様に指定された椅子に座って行う。正置された地図。上方が北である磁北線の表示。地図の下にある位置説明。二人の計時員などについては現行方法と同じ。電子パンチも可能。

■ 回答はポイントング・ボードを指差すか、国際音声アルファベット表示法による音声回答を使用 (F=Foxtrot フォックス・トロット)。

■ Z (正解なし) コントロールOK。ただしブリテンかティーム・リーダ・ミーティングでその事前周知が必要。

■ 各ステーションで複数のTCをこなす場合は、そこで使用する全ての地図をまとめて最初に競技者に渡し、競技

者は 1 問題を回答後、自己の責任で次の地図を開く。順序を正しく地図を開いてゆくこと、また、回答後に次の地図に移ることは競技者の責任である。

■ 計時は最初に (全ての) 地図を競技者に渡した時点で始まり、最後の地図 (課題) の回答を行った時点で終了する。ひとつひとつの地図 (課題) ごとの時間計測は行わない。

■ 総合回答制限時間は、1.5分×課題数 (地図枚数) となる。障害等で自分で地図変更が出来ない競技者には、主催者側からアシスタントをつける。

■ 総合制限時間中に回答できなかった場合は不正解として処理され、ペナルティが課せられる。

■ 成績は合計時間+ペナルティ時間の総合計によって評価される。(ペナルティ時間は 45 秒を検討中)。

■ 電子パンチを使用しない場合のコントロール・カードは特別なものとなる見込み。

### ■ 表彰は、オープン・クラス、パラリンピック・クラス別にそれぞれ 3位まで

正解したポイントはカウントせず、回答に要した総時間合計で評価する。もちろん短時間であるほど上位となる。

### ■ さて、それではいつから...

最初の書いたように、テンポ世界選手権実施に関する競技規則については、現在 IOF トレイルO委員会での内容を練っている。いろんなステップの手続きをへて正式な IOF 規則となつて、はじめて陽の目を見る。

トレイルO委員会では来年の WTOC でデモ競技を行いたいと考えている。諸条件が可能となれば 2011 年のフランスでの WTOC で最初の TempO 世界チャンピオンが誕生するかもしれない。

英、Sweden, Finland, Norway などのヨーロッパ諸国では隆盛中。日本でも、ようやく何回かのテンポのトライアルが行われるようになってきたが、世界にアンテナを張って動きを敏感にキャッチし、乗り遅れないようにすることが必要であろう。

(こやま たろう)

TempO 競技の詳細解説については、本誌 2008 年 2 月号、6 月号他に掲載。または筆者へどうぞ。

taro-ktrailo@xb3.so-net.ne.jp